

持続可能な福祉社会への道

広井良典(京都大学こころの未来研究センター)

hiroi.yoshinori.5u@kyoto-u.ac.jp

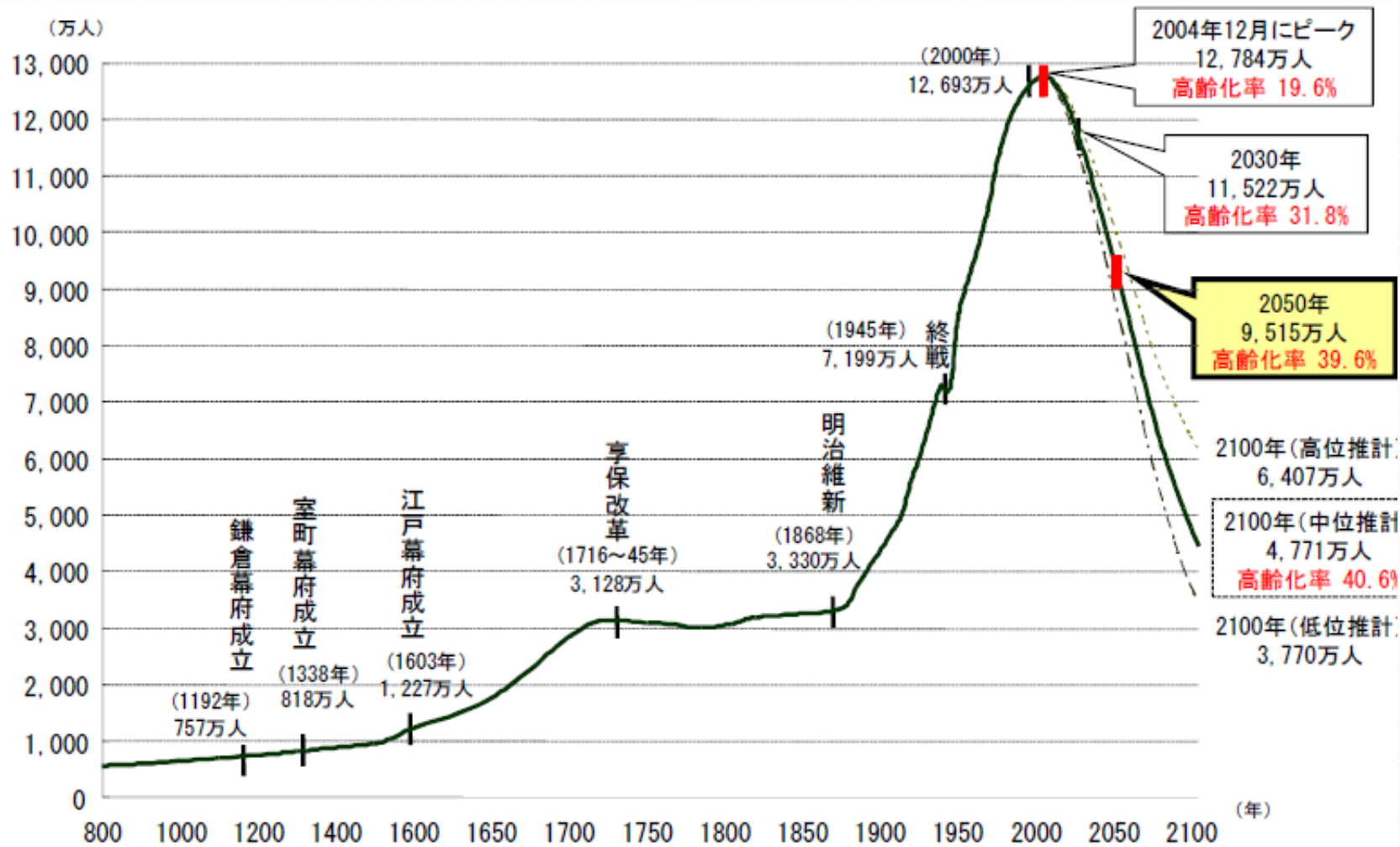
全体の流れ

- はじめに：**人口減少**時代の社会構想
——真の「豊かさ」に向けて
- 1. **コミュニティ**をめぐる課題
- 2. これからの**社会保障**
- 3. どのような社会を目指すのか
——「**持続可能な福祉社会**」の展望

はじめに：人口減少時代の社会構想

— 真の「豊かさ」に向けて —

日本の総人口の長期的トレンド



(出典)総務省「国勢調査報告」、同「人口推計年報」、同「平成12年及び17年国勢調査結果による補間推計人口」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)」、国土庁「日本列島における人口分布の長期的系列分析」(1974年)をもとに、国土交通省国土計画局作成

様々な「幸福」指標とランキング

World Values Survey

世界的な調査機関World Values Surveyのもと、ミシガン大学のロナルド・イングルハート教授が指揮をとって、個人を対象に幸福度に関するデータを収集して統計をとったもの。世界97カ国の35万人を対象に、同一の質問を投げかけて生まれた「世界幸福度ランキング」(2008年)の一位は、デンマーク

1位 デンマーク

- 2位 ブエルトリコ
- 3位 コロンビア
- 4位 アイスランド
- 5位 北アイルランド
- 6位 アイルランド
- 7位 スイス連邦
- 8位 オランダ王国
- 9位 カナダ
- 10位 オーストリア
- 11位 エルサルバドル共和国
- 12位 マルタ共和国
- 13位 ルクセンブルグ
- 14位 スウェーデン
- 15位 ニューゼーランド
- 16位 アメリカ合衆国
- 17位 グアテマラ共和国
- 18位 メキシコ合衆国
- 19位 ノルウェー王国
- 20位 ベルギー王国

43位 日本

97位 ジンバブエ共和国

World map of happiness

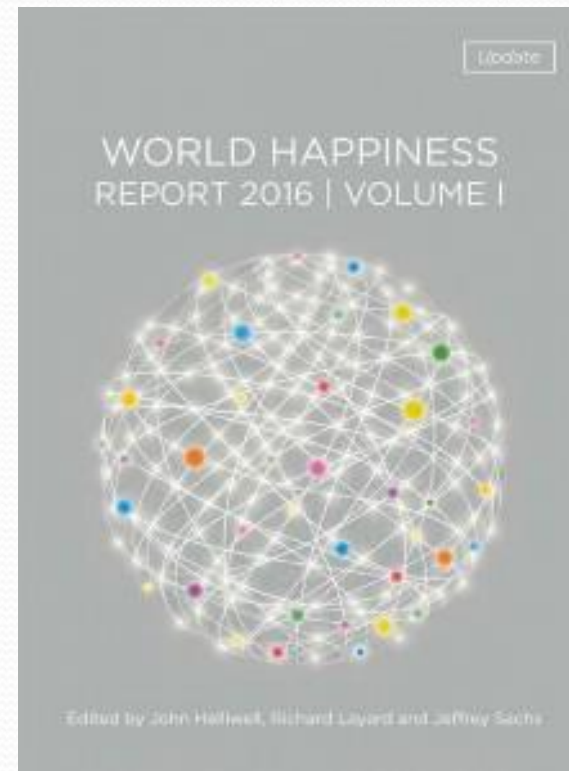
イギリスのレスター大学のエイドリアン・ホワイト教授が指揮をとって、教育や医療制度のほか、GDPなど、社会のしくみの側面から独自にデータを算出して統計をまとめた『世界幸福地図』(2006年)の178カ国中の一位は、デンマークだった。北限5カ国はすべて上位20位以内にランキングされている

1位 デンマーク

- 2位 スイス連邦
- 3位 オーストリア
- 4位 アイスランド
- 5位 パハマ国
- 6位 フィンランド
- 7位 スウェーデン
- 8位 ブータン王国
- 9位 ブルネイ・ダルサラーム国
- 10位 カナダ
- 11位 アイルランド共和国
- 12位 ルクセンブルク大公国
- 13位 コスタリカ
- 14位 マルタ共和国
- 15位 オランダ王国
- 16位 アンティグア・バーブーダ
- 17位 マレーシア
- 18位 ニューゼーランド
- 19位 ノルウェー王国
- 20位 セーシェル共和国

90位 日本

178位 ブルンジ共和国



国連『世界幸福報告2016』
1位デンマーク、日本は53位

GNH・GAH・GKH

・・・「GDPに代わる経済指標」や「幸福度」をめぐる議論の活発化

- フランスのサルコジ大統領(当時)の委託を受け、ノーベル経済学賞を受賞したスティグリッツやセンといった経済学者が、「GDPに代わる指標」に関する報告書を刊行(*Mismeasuring Our Lives: Why GDP doesn't add up*, 2010)
- GDPで計測できない「**生活の質**(Quality of Life)」や「**持続可能性**(Sustainability)」を重視
- GNH(ブータン)、**GAH**(荒川区)、GKH(高知県)などをめぐる議論
- 内閣府・幸福度に関する研究会・・・2011年12月に幸福度指標試案を公表
 - ①経済社会状況、②心身の健康、③関係性、の3本柱

幸せはローカルから



GAH

Gross Arakawa Happiness 荒川区民総幸福度

みんなのでつくる
幸せのまち



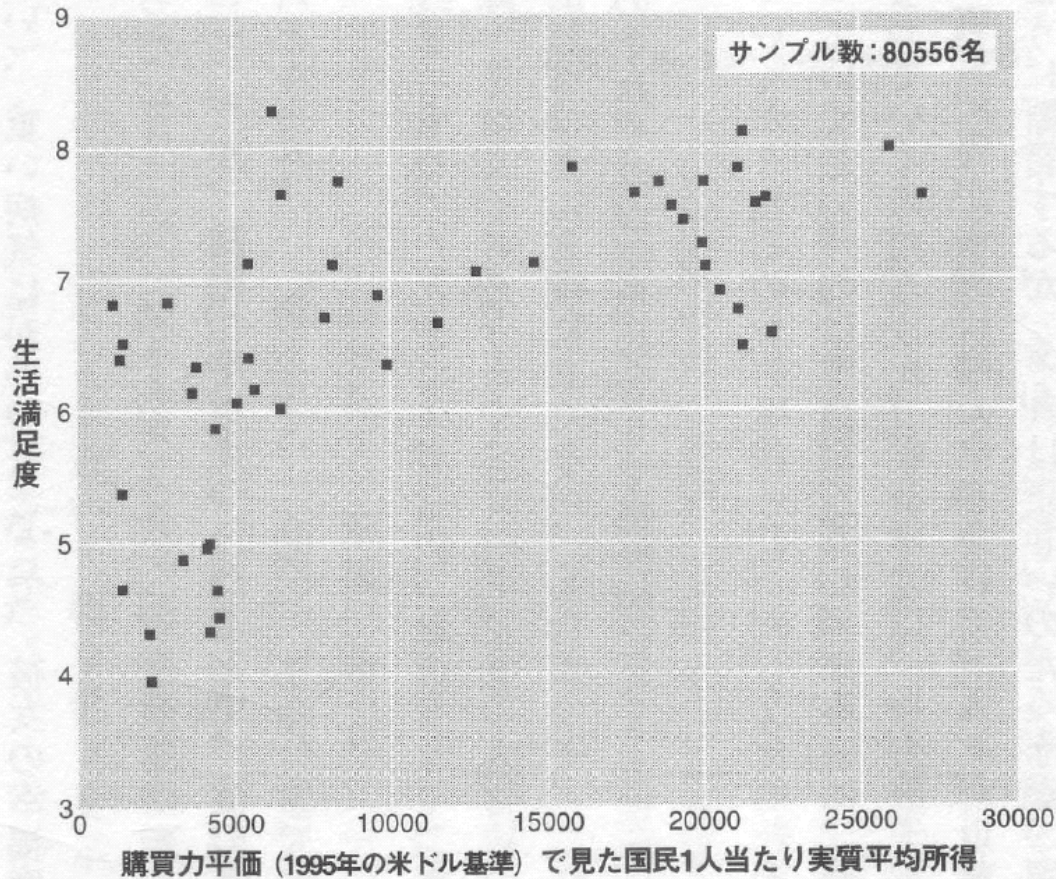
RILAC

Research Institute for Local government by Arakawa City
公益財団法人荒川区自治総合研究所



世界における生活満足度と所得の関係

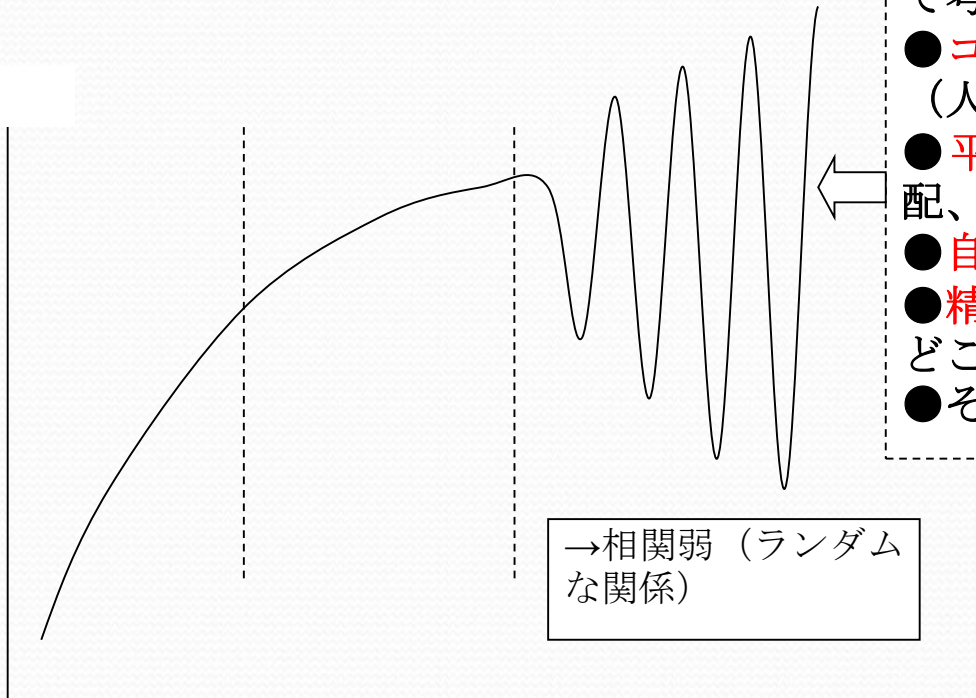
図1-4 世界における生活満足度と所得の関係 (1990年代)



出典：World Values Survey 1990-1993/1995-1997 (ICPSR 2790)
および、World Development Report 1997.

経済成長と「Well-being（幸福、福祉）」 （仮説的なパターン）

幸福度



【幸福度の規定要因として考えられるもの】

- **コミュニティ**のあり方（人と人との関係性）
- **平等度**（所得等の分配、格差）
- **自然環境**との関わり
- **精神的**、宗教的なよりどころ等
- その他

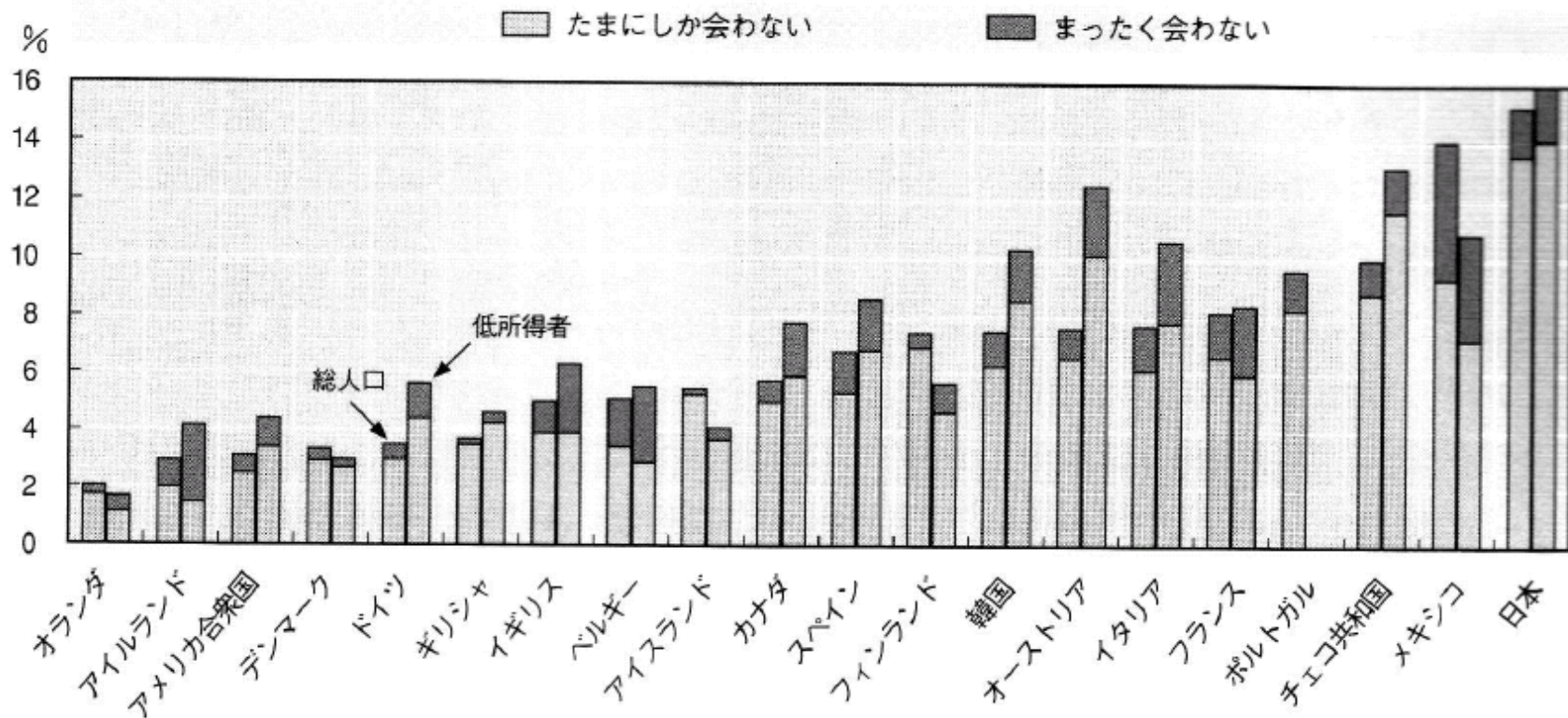
経済成長（一人当たり所得）

1. コミュニティをめぐる課題

先進諸国における社会的孤立の状況

…日本はもっとも高い。個人がばらばらで孤立した状況

図1.3 OECD加盟国における社会的孤立の状況 2001年

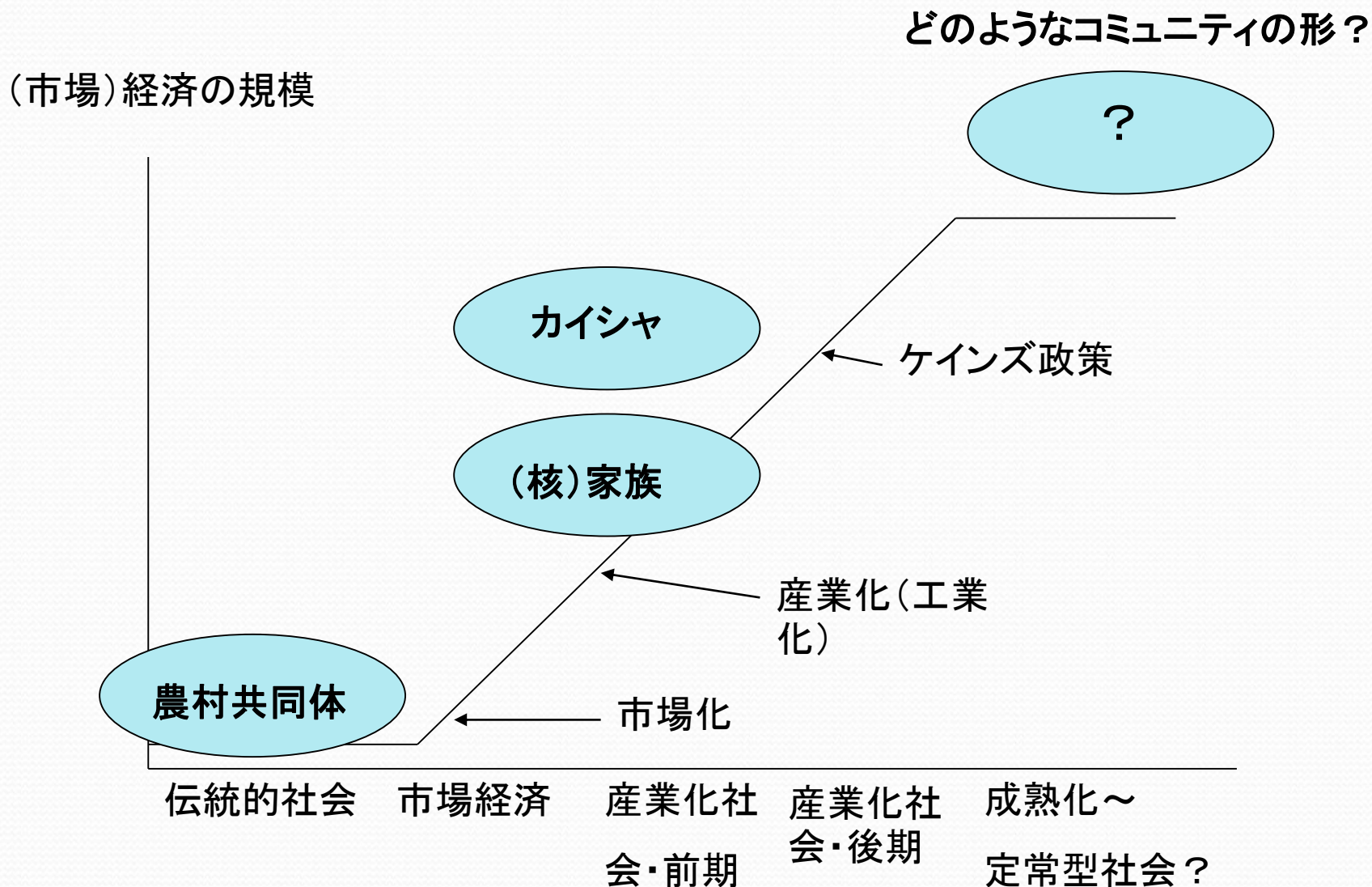


注：この主観的な孤立の測定は、社交のために友人、同僚または家族以外の者と、まったくあるいはごくたまにしか会わないと示した回答者の割合をいう。図における国の並びは社会的孤立の割合の昇順である。低所得者とは、回答者により報告された、所得分布下位3番目に位置するものである。

出典：World Values Survey, 2001.

現在の日本社会・・・「古い共同体が崩れ、新しいコミュニティができていない。」

経済システムの進化とコミュニティ



日本社会：“稲作の遺伝子”

- 「**ウチ**」と「**ソト**」の明確な区別
- 「**空気**」への同調性、外部への潜在的排他性
- “集団が内側に向かって閉じる”

- 2000年におよぶ稲作社会で培われてきた意識・行動様式
- 都市の中に「カインシャ」「(核)家族」という“ムラ社会”を持ち込む …見かけ上の“好循環”
- 経済が成熟し、カインシャ、家族が流動化する中で矛盾が顕在化

- 「**関係性の進化**」の途上。**新たなコミュニティ**への様々な動き
- **集団を超えたつながり**の重要性 (⇒今日のテーマとも)

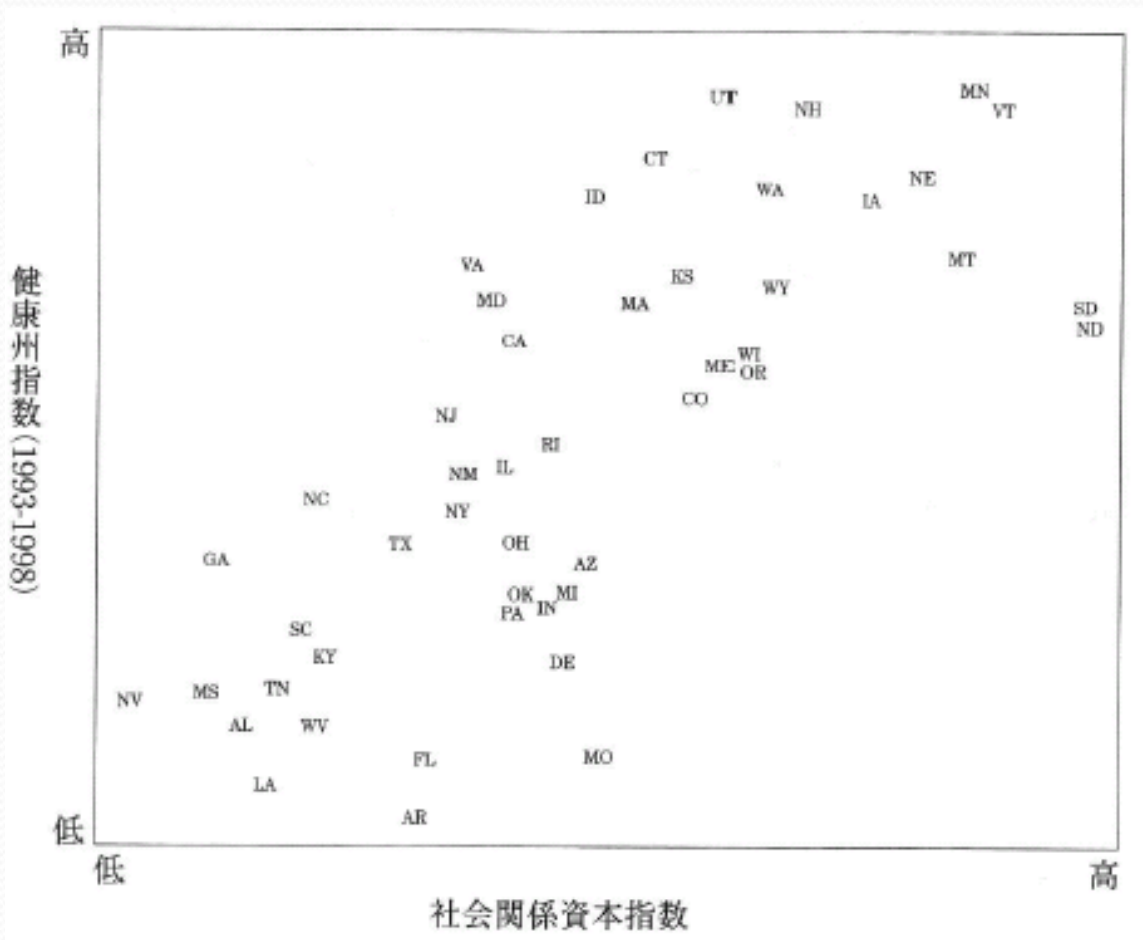
(参考) 農村型コミュニティと都市型コミュニティ

	農村型コミュニティ	都市型コミュニティ
特質	“同心円を広げてつながる”	“独立した個人としてつながる”
内容	「 共同体 的な 一体意識 」	「 個人 をベースとする 公共意識 」
性格	情緒的（&非言語的）	規範的（&言語的）
関連事項	文化	文明
	共同性 common	公共性 public
ソーシャル・キャピタル	結合型(bonding) 〔同質的な者同士の緊密なつながり〕	橋渡し型(bridging) 〔異質な個人間のネットワーク的つながり〕

ソーシャル・キャピタル（社会関係資本） というコンセプト



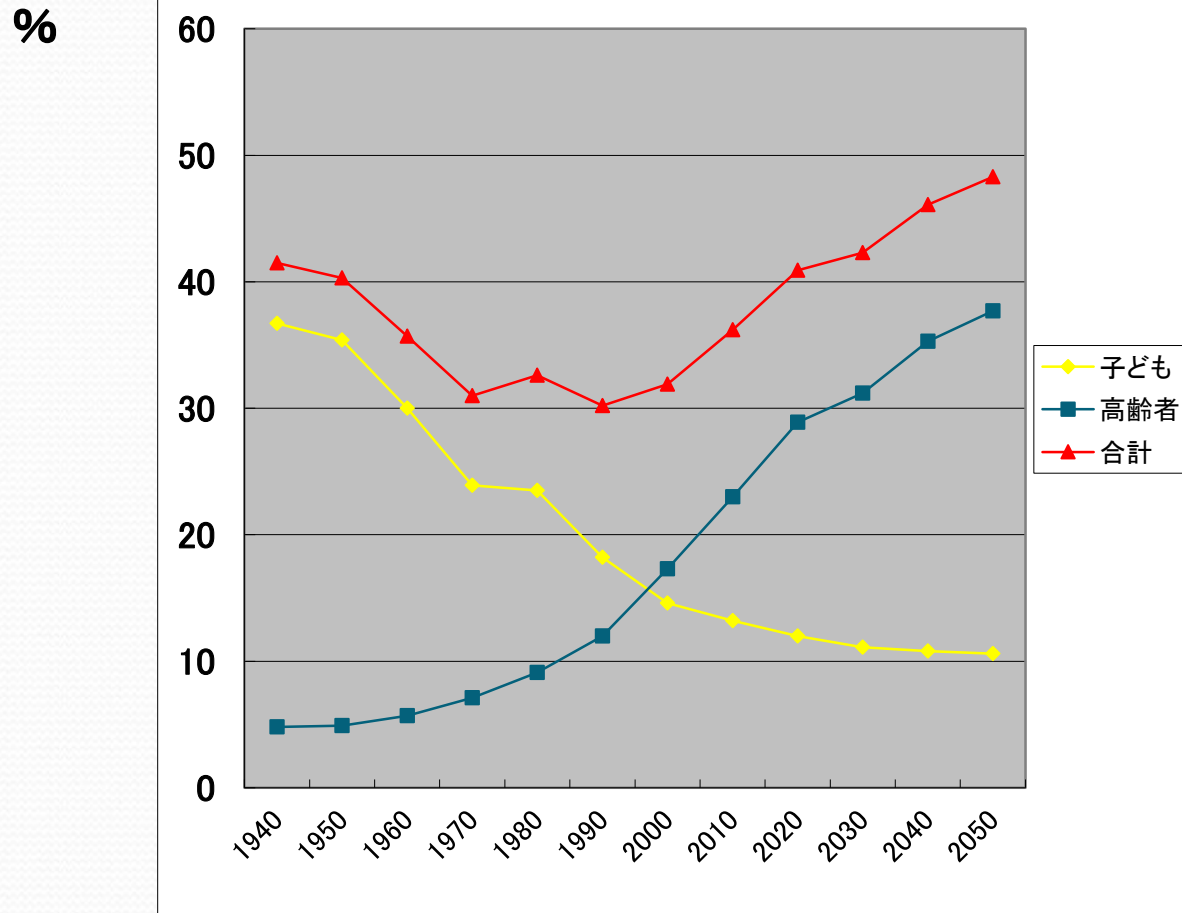
ソーシャル・キャピタル (人と人とのつながりのあり方) と健康水準の相関 (アメリカ)



(出所)パットナム(2006)

「地域密着人口」の増加

人口全体に占める「子ども・高齢者」の割合の推移(1940-2050年)



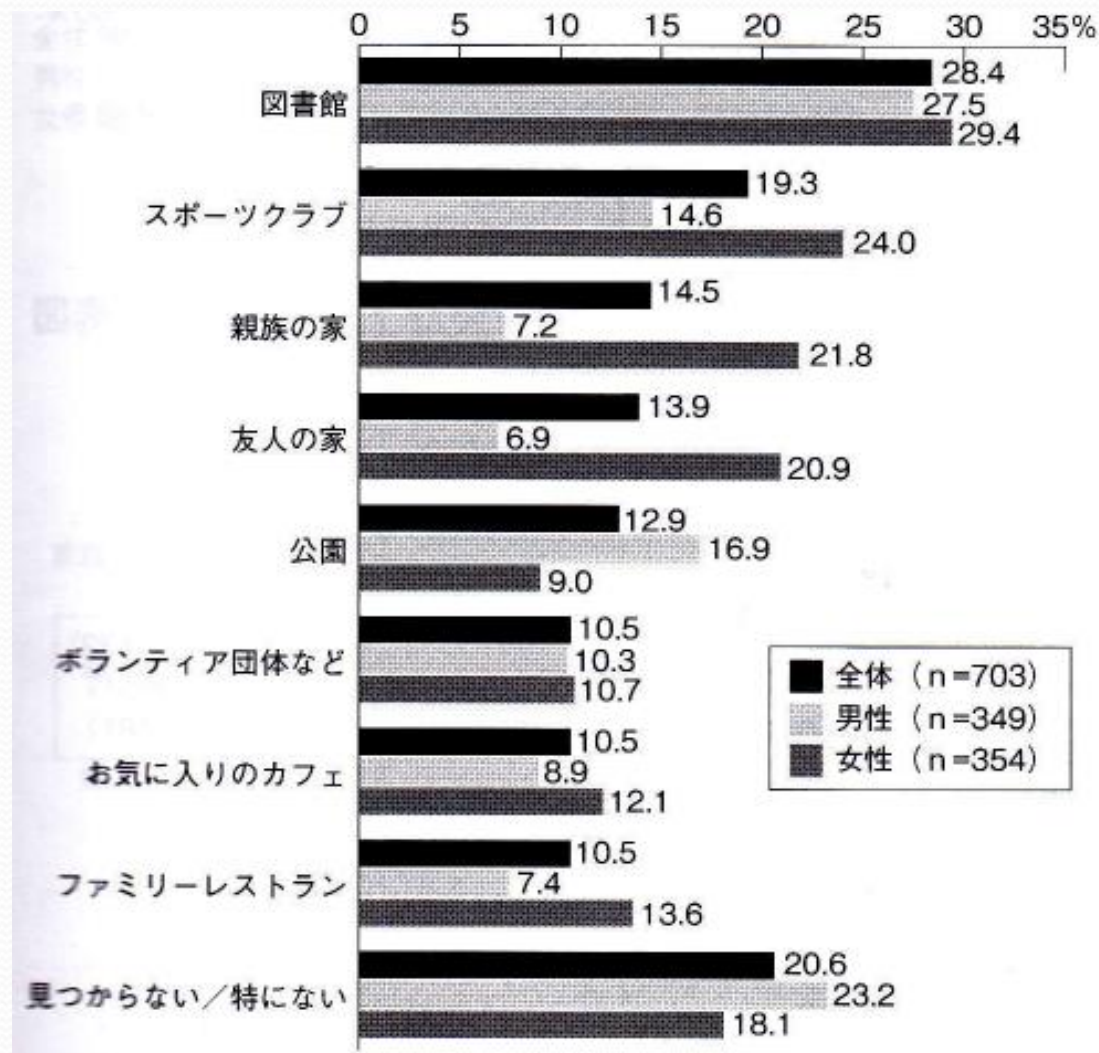
(注)子どもは15歳未満、高齢者は65歳以上

(出所)2010年までは国勢調査。2020年以降は「日本の将来推計人口」(平成29年推計)

ひとり暮らし高齢者の急速な増加 1995年⇒2015年

- 男性：46万人から180万人に (3.9倍)
 - …134万人の増加
- 女性：174万人から383万人に (2.2倍)
 - …209万人の増加

退職後の居場所：「あなたは自宅以外で定期的に行く居場所がありますか。」…首都圏に住む60～74歳の男女1236人へのアンケート調査(複数回答)



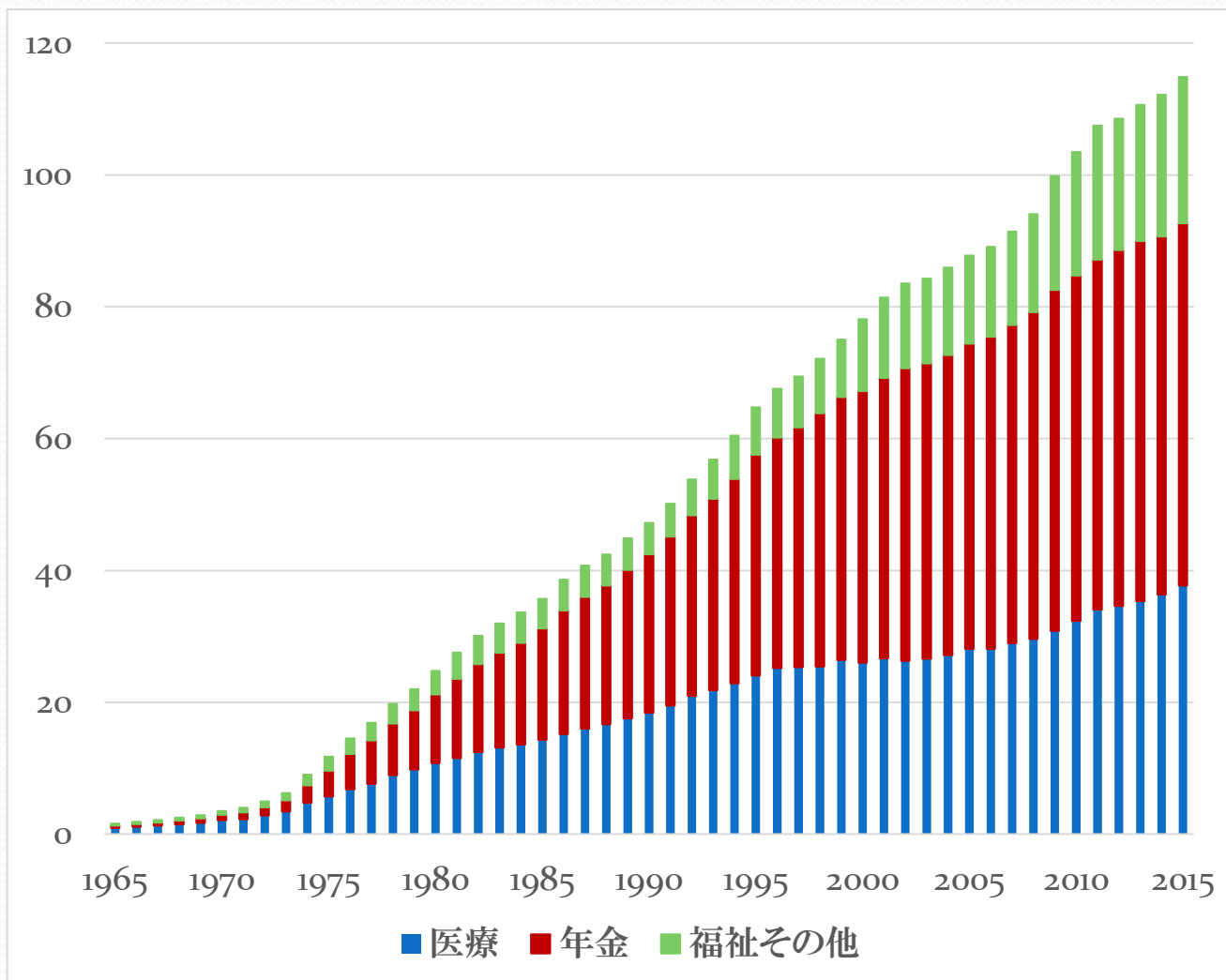
戦後の日本人にとっての「居場所」 とは

- 農村から都市への人口大移動
⇒「カインシャ」と「(核)家族」が“居場所”の中心に
- 特に**男性**にとっては最大の居場所 = **カインシャ**
- 団塊世代の退職や急速な高齢化、個人化の進展の中で、
新たな「居場所」を模索しているのが現在の日本社会
 - ・・・子ども・若者～高齢者を通じ、社会全体を象徴する課題
 - 「居場所」を意識したまちづくりの重要性

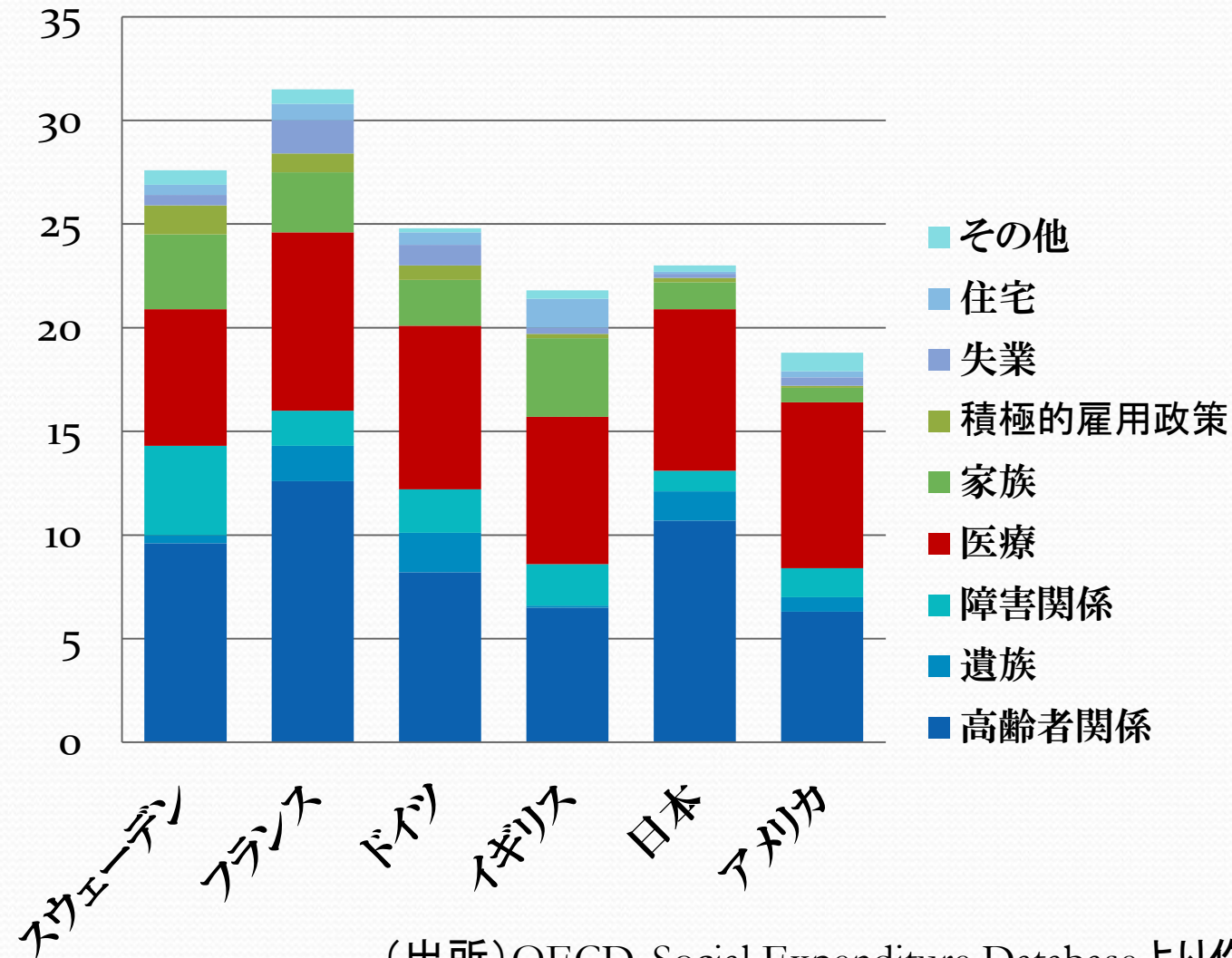
2. これからの社会保障

社会保障給付費の増加

—2015年度で**114.9兆円**に。なお着実に増加



社会保障給付費の国際比較 (対GDP比、%) 2013年

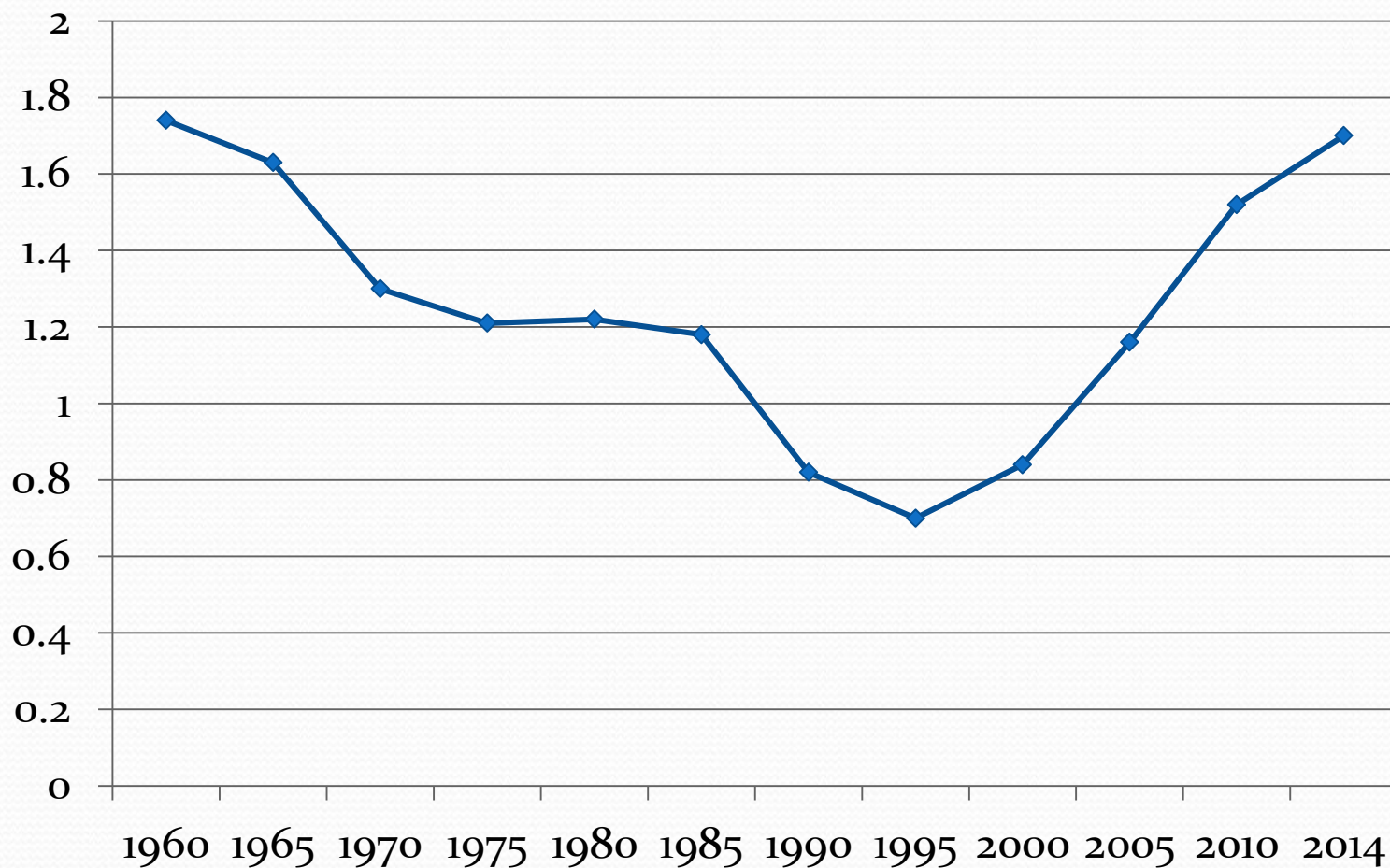


(出所) OECD, Social Expenditure Databaseより作成

なぜ日本の社会保障給付はこれまで「低くてすんだ」のか？

- 1. **インフォーマルな社会保障**（“見えない社会保障”）の存在
 - **会社**や**家族**が社会保障を代替する機能を果たす
- 2. “**公共事業型社会保障**”
 - 公共事業等が「職の提供を通じた生活保障」という形で社会保障的な機能を果たす（特に1970年代以降）

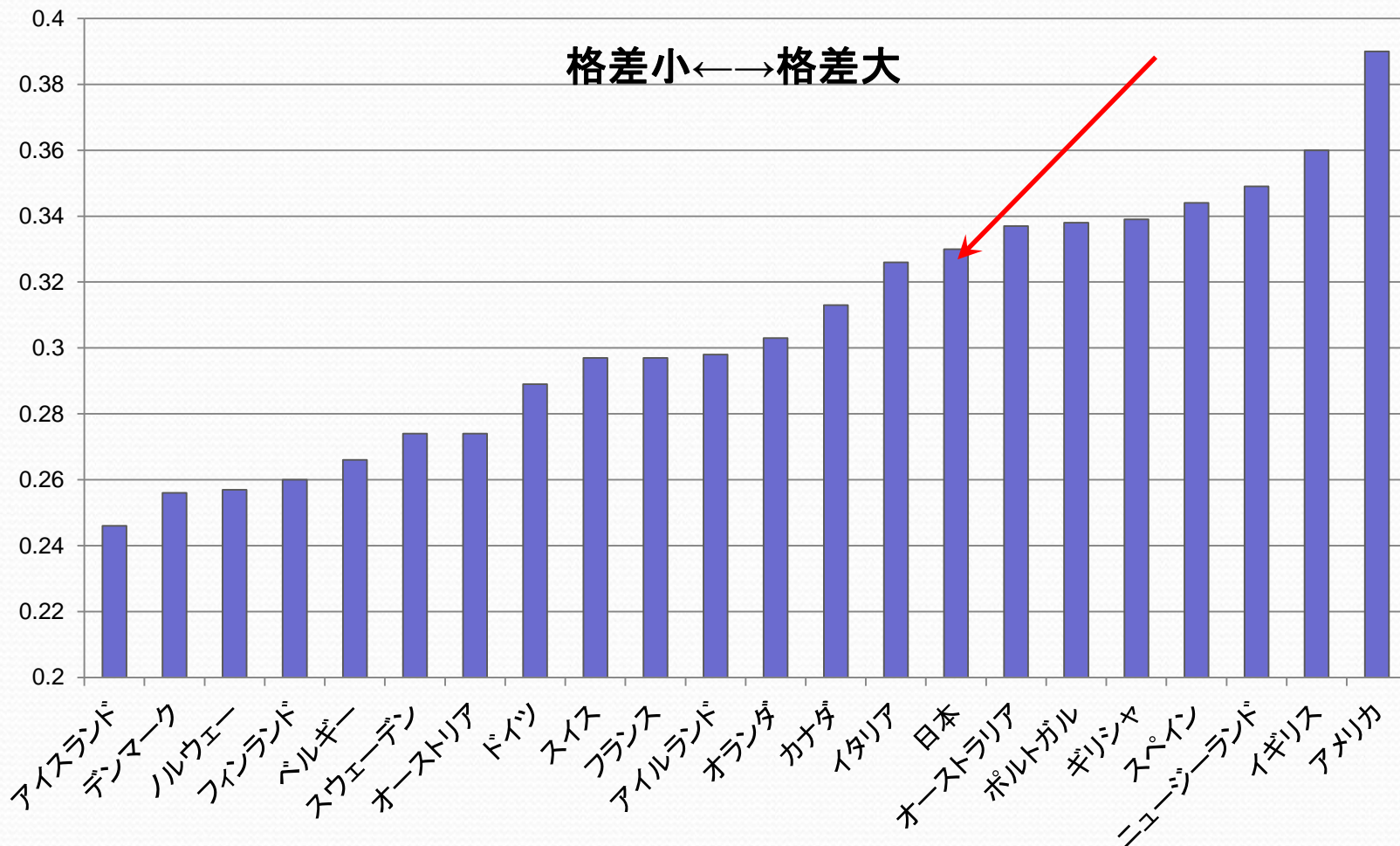
生活保護を受けている者の割合（保護率） の推移（%）



（出所）厚生労働省社会・援護局「被保護者調査」

所得格差(ジニ係数)の国際比較(2015年)

近年、日本は先進諸国の中で格差が大きいグループに



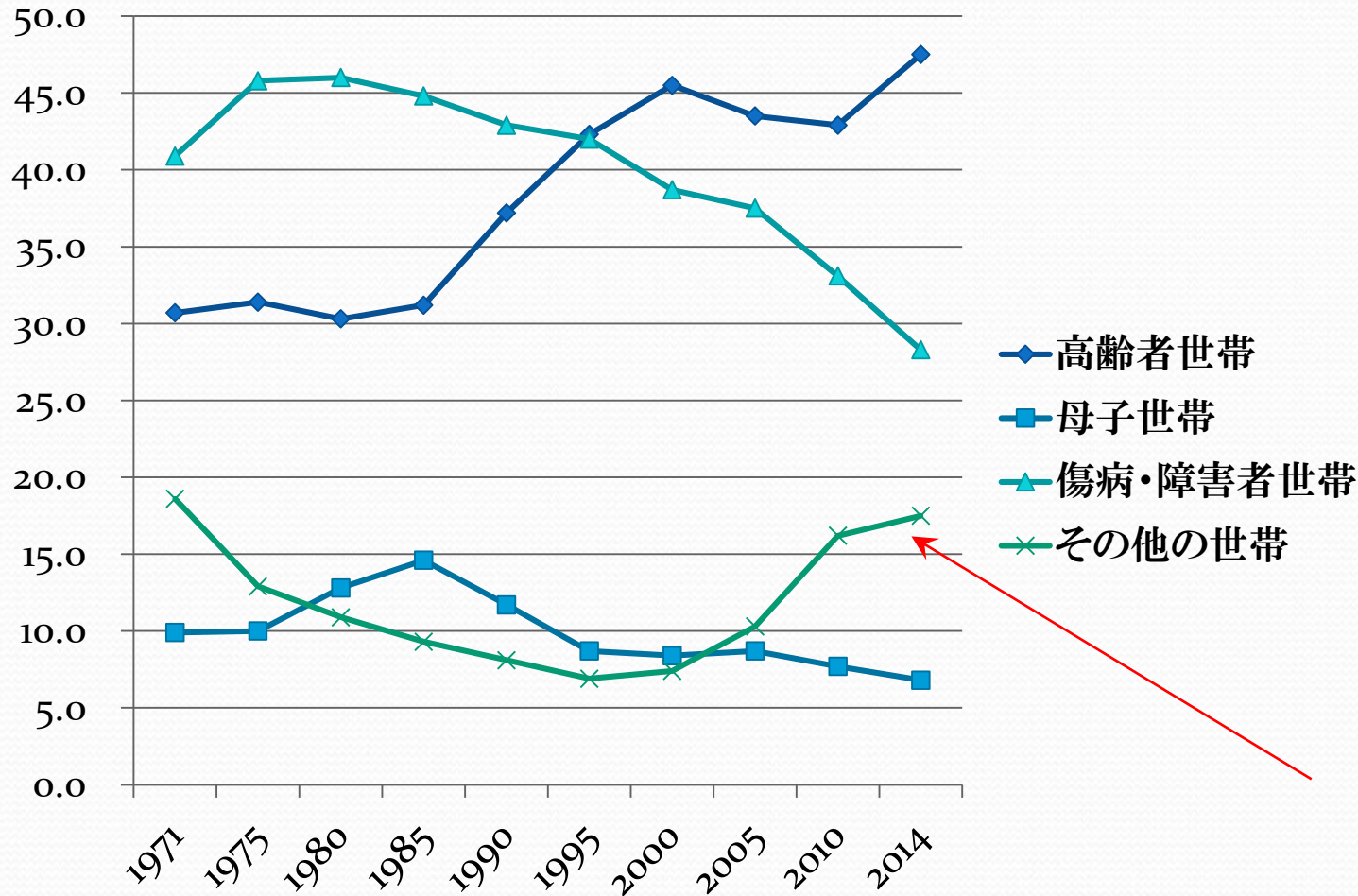
(注1) 主に2015年の数値

(注2) ここでの所得は再分配後の家計当たりの可処分所得(家計人数に応じて調整)

(出所) OECD Income Distribution Database (IDD)より作成

生活保護：世帯類型割合の推移(%)

・・・若者を多く含む「その他の世帯」が増加



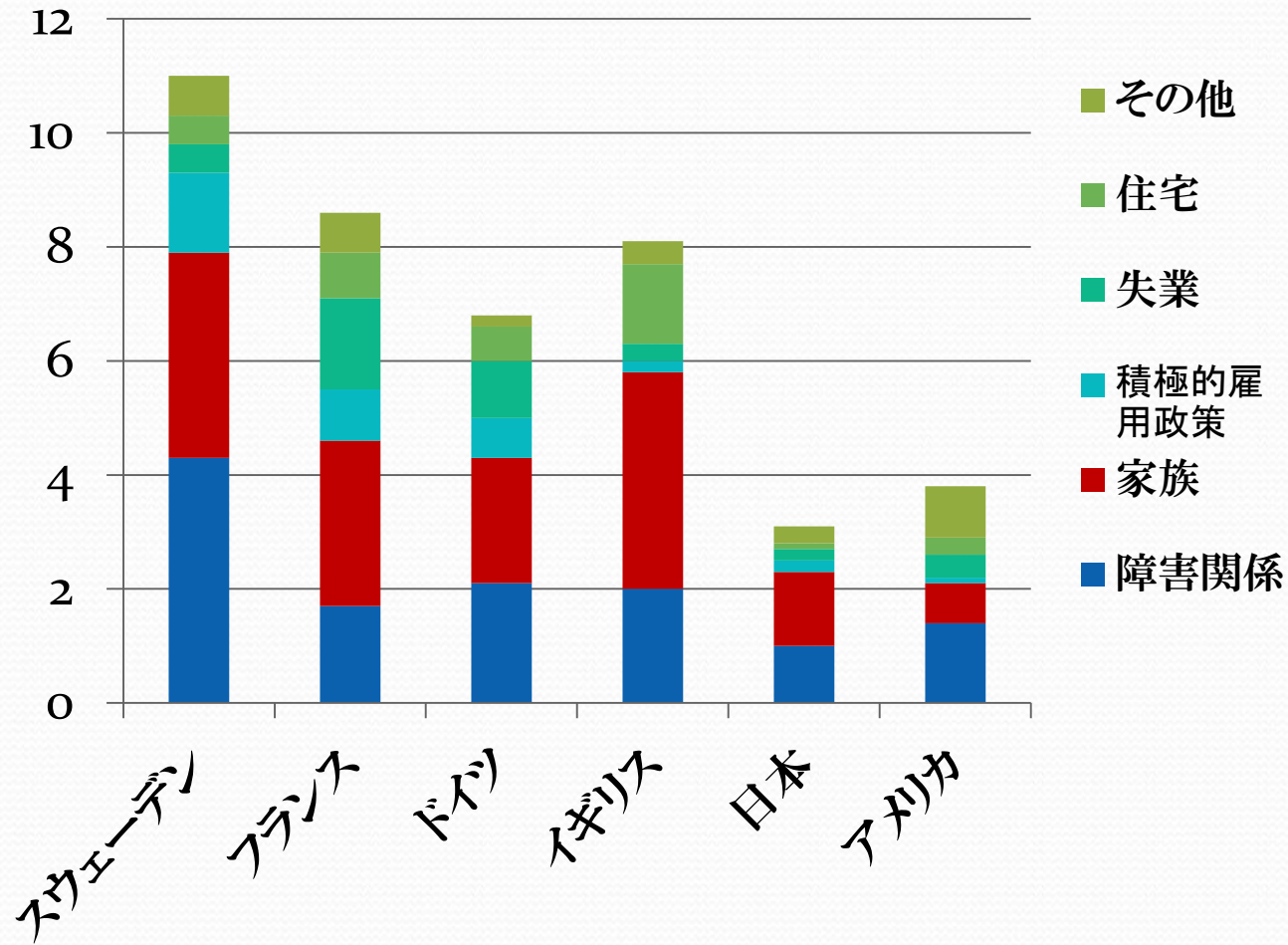
社会保障をめぐる新たな課題

…「人生前半の社会保障」

- 社会保障全体のうち、高齢者関係給付が68.7%を占める（2009年度）。これに対し家族（子ども）関係給付は3.3%
- 近年 → 会社や家族の流動化・多様化、慢性的な供給過剰の中で、リスクが人生前半にも広く及ぶように
- 加えて、所得格差（含資産面）が世代を通じて累積し、個人が生まれた時点で「共通のスタートライン」に立てるという状況が脆弱化
- 20代の生活保障や所得水準は、結婚ひいては出生率にも大きな影響（ex. 年収300万の分岐）
- かつて「ストック面での人生前半の社会保障」としてきわめて重要な役割を果たした公的住宅も後退（晩婚化のため単身の若者が増えたが、公的住宅は家族世帯向けが中心）

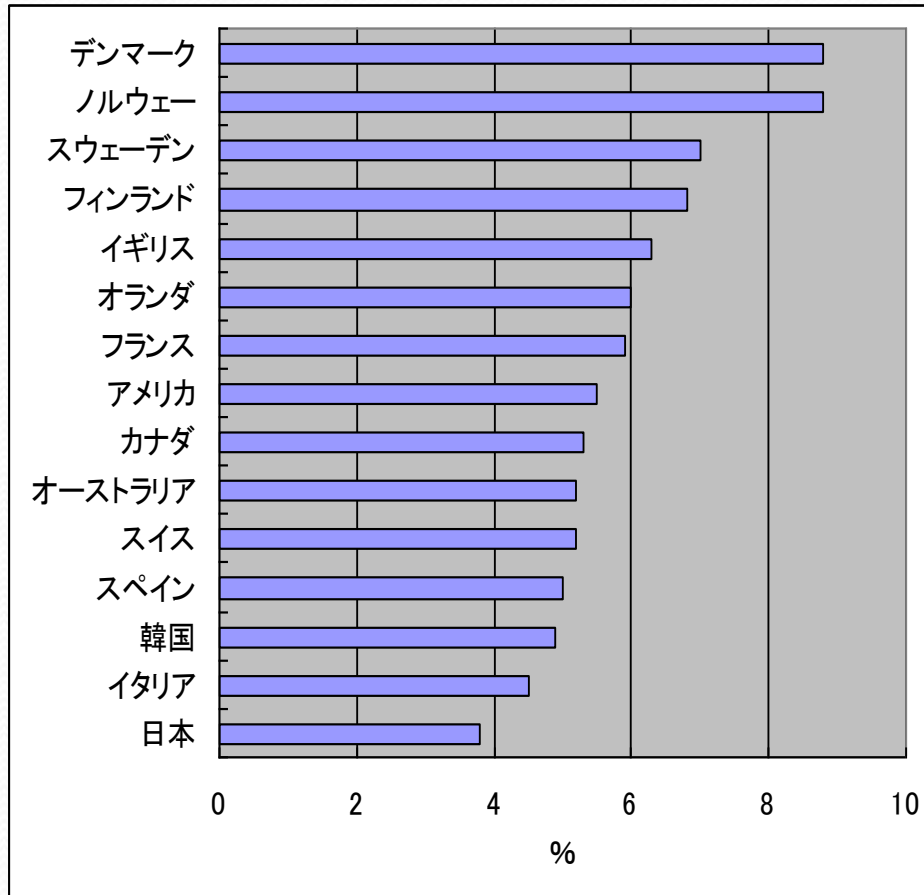
「人生前半の社会保障」の国際比較 (対GDP比、%) 2013年

日本の低さが目立つ



公的教育支出の国際比較(対GDP比、2010年)

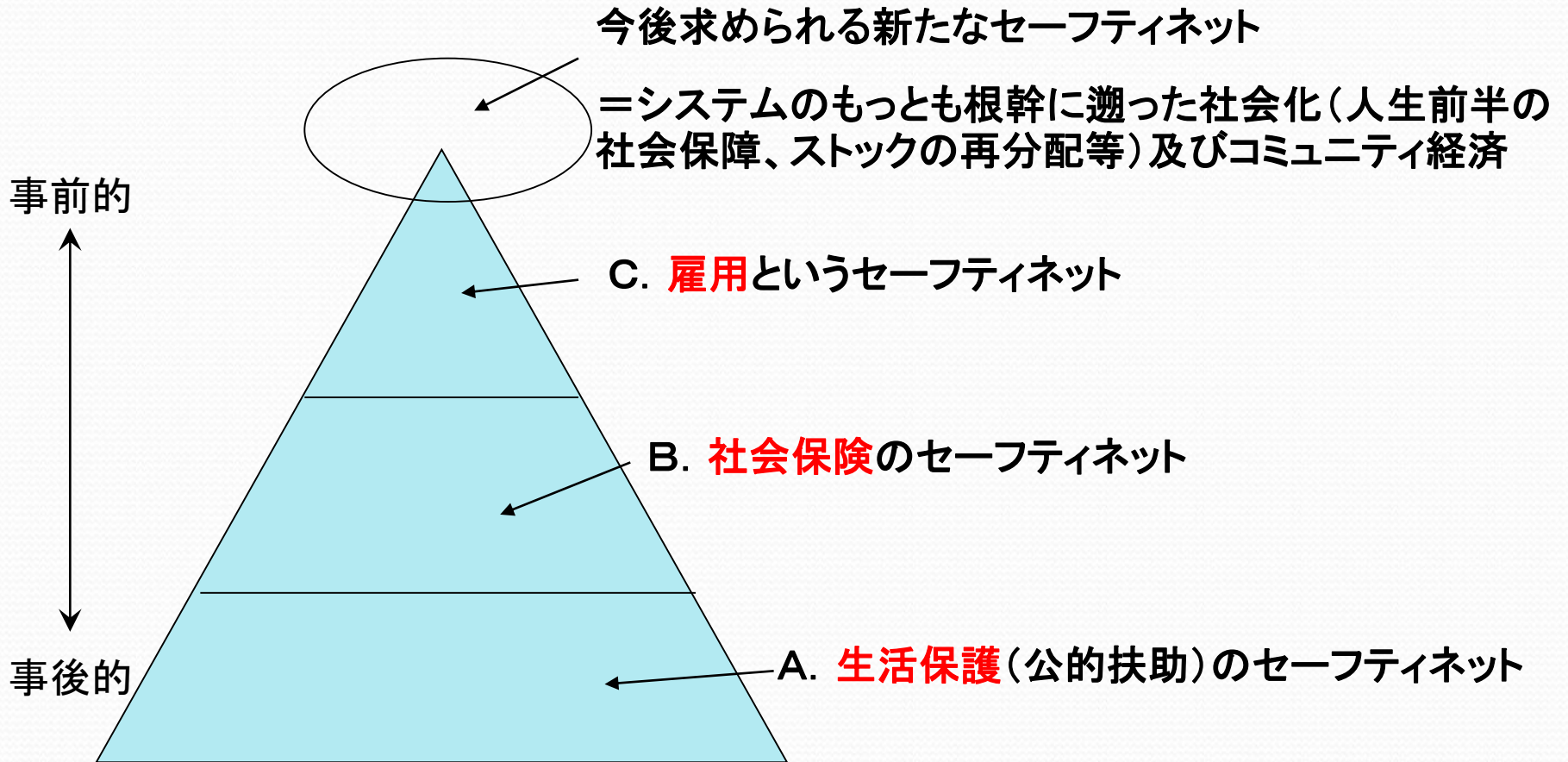
日本はOECD加盟30か国中最低



(出所)OECD, *Education at a Glance 2013* より作成。

また特に就学前と高等教育期において、教育における私費負担の割合が大(高等教育期についてはOECD平均30.9%に対し日本は 67.5% OECD, *Education at a Glance 2010*)

社会的セーフティネットの構造と進化

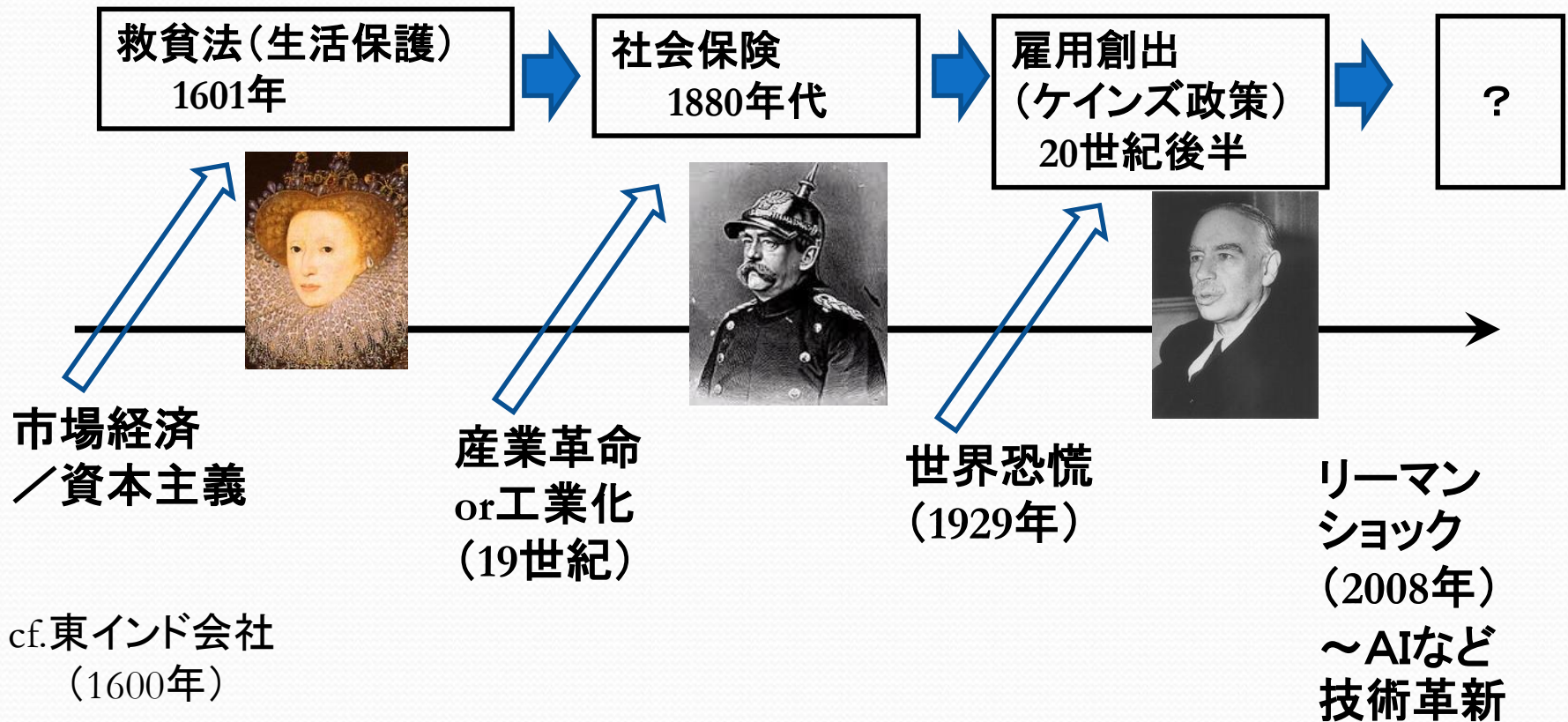


資本主義の進化と社会保障

市場経済への介入の拡大
あるいは資本主義の“修正”

事後的

事前的



これからの社会保障の基本的方向

—全体として、「事前的・予防的社会保障」へ—

- (1) 事後から**事前**へ
 - ・・・人生前半の社会保障
- (2) フローから**ストック**へ
 - ・・・ストック(住宅、土地、資産)に関する社会保障
- (3) サービスないし「**ケア**」の重視へ
 - ・・・心理社会的ケアに関する社会保障
- (4) 都市政策・**まちづくり**・環境政策との統合

→資本主義システムのもっとも根幹に遡った**社会化**、
あるいは**コミュニティそのもの**に遡った社会保障・福祉へ

「公・共・私」の役割分担のダイナミクス

「公」

政府

クロス・オー
バー、パートナ
シップ

伝統的共同体

新しいコミュニティ

「共」

市場

〈共〉

(新しい公共)
(NPOなど)

「私」

【伝統的社会】

【市場化・産業化社会】

【成熟化・定常型社会】

荒川区の例

(『日経グローバル』誌の高齢化対応度調査(2013年11月)で全国2位〔調査自治体:702市区〕)

- 「地域力」を重視←「GAH(荒川区民総幸福度)」の一環
- 「町会」の活動を再評価
- 高齢者みまもりネットワーク
例) 新聞販売店との連携
- 緊急通報システム(ひとり暮らし高齢者等が家庭内の専用機器ボタンを押すと事業者の警備員が駆けつける)
- 孤独死はほぼゼロ



3. どのような社会を目指すのか ——「持続可能な福祉社会」 のビジョン

「グローバル化」の先の世界：

二つの道の岐路、“せめぎ合い”の時代

- トランプ現象に見られるような、強い「**拡大・成長**」志向と一体となった**ナショナリズム** & 排外主義
- **ローカル**な経済循環や共生から出発し、そこからナショナル、グローバルへと積み上げつつ「**持続可能な福祉社会**」を志向する方向

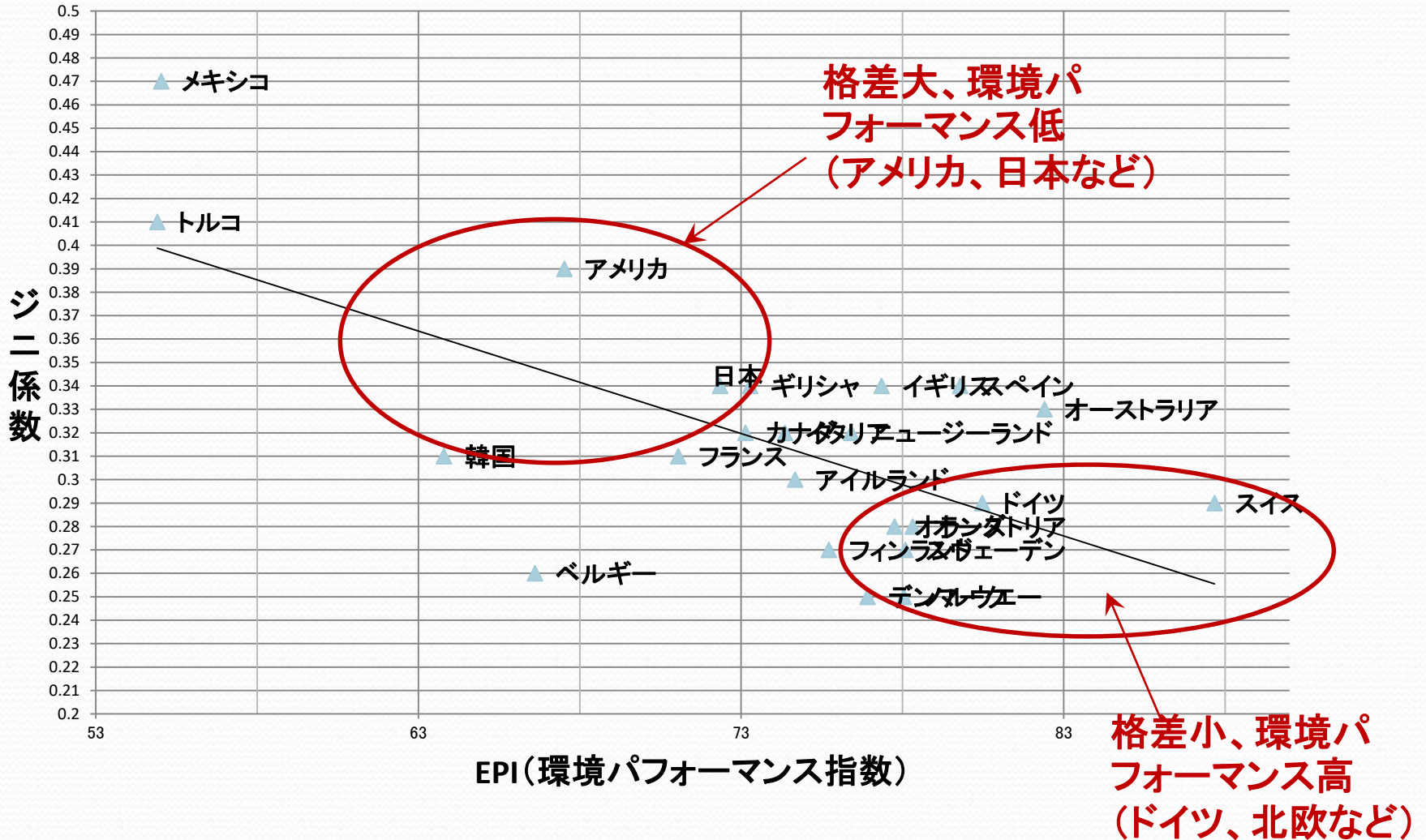
目指すべき社会モデル

- 「**持続可能な福祉社会**sustainable welfare society」
- ● 「個人の生活保障や分配の公正が実現されつつ、それが環境・資源制約とも調和しながら長期にわたって存続できるような社会」
- **環境**・・・富の総量の問題 **持続可能性**
- **福祉**・・・富の分配の問題 **平等、公正**

の両者の統合

- 「**定常型社会**」(＝経済成長を絶対的な目標とせずとも、十分な豊かさが実現されていく社会) というコンセプトとも不可分

「持続可能な福祉社会（緑の福祉国家）」指標



(注)ジニ係数は主に2011年(OECDデータ)。EPIはイェール大学環境法・政策センター策定の環境総合指数

(出所) 広井研究室作成

(参考)「緑の福祉国家(持続可能な福祉社会)」

- 環境保全あるいは脱生産主義的な志向をもった福祉国家
- ローカルレベルの地域内経済循環(自然エネルギー等)から出発
& ナショナル、グローバルレベルの重層的な再分配
- 資本主義・社会主義・エコロジーの融合
～「市場・政府・コミュニティ」のクロス・オーバー

- 概括的な国際比較
 - 1) 緑の福祉国家A: ドイツ、デンマーク (オランダ) ……分権的、脱生産主義的
 - 2) 緑の福祉国家B: スウェーデン (フィンランド)
……「環境近代化(ecological modernization)」的
 - 3) 通常の福祉国家: フランス
 - 4) 非環境志向・非福祉国家: アメリカ (日本)

人口減少社会を希望に

- 高度成長期に象徴される人口増加期
 - ……“**集団で一本の急な坂道を登る時代**”
- 物質的な豊かさは得てきたものの、相当な無理を重ね、また様々なものを失ってきた面も
- 人口減少・ポスト成長時代という根本的な転換と変容
- コミュニティや自然とのつながりの再構築
- 様々な主体の連携～**集団を超えた個人のネットワーク**
- 真の「**豊かさ**」や**幸福**への模索、新たな出発点

御清聴ありがとうございました

コメント、質問等歓迎します

hiroi.yoshinori.5u@kyoto-u.ac.jp

* 関連組織

・鎮守の森コミュニティ研究所

<http://c-chinju.org/>

参考文献

- 伊東俊太郎(2013)『変容の時代——科学・自然・倫理・公共』、麗澤大学出版会
- ウィルキンソン(2009)『格差社会の衝撃—不健康な格差社会を健康にする法』、書籍工房早山
- 近藤克則(2005)『健康格差社会』、医学書院
- ロバート・パットナム(2006)『孤独なボウリング—米国コミュニティの崩壊と再生』、柏書房
- 広井良典(1997)『ケアを問いなおす——〈深層の時間〉と高齢化社会』、ちくま新書
- 同(2001)『定常型社会 新しい「豊かさ」の構想』、岩波新書
- 同(2001)『死生観を問いなおす』、ちくま新書
- 同(2009)『コミュニティを問いなおす』、ちくま新書
- 同(2011)『創造的福祉社会』、ちくま新書
- 同(2013)『人口減少社会という希望』、朝日新聞出版
- 同(2015)『ポスト資本主義 科学・人間・社会の未来』、岩波新書
- 同(2018)『持続可能な医療——超高齢化時代の科学・公共性・死生観』、ちくま新書
- 同編(2017)『福祉の哲学とは何か——ポスト成長時代の幸福・価値・社会構想』、ミネルヴァ書房
- ブルーノ・S・フライ他(2005)『幸福の政治経済学』ダイヤモンド社